京城新報

●新聞料　▲一部二錢▲同一ヶ月金廿五錢●三ヶ月前金[illegible]▲六ヶ月前金[illegible]▲郵稅一月金拾參錢
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆十一月廿二日
發行編輯兼印刷人　山下英[illegible]　京城西署[illegible]
發行所　京城新報社　電話六六三

一年雜記　對星樓山人

事變後の宮廷（下）

[illegible]る森林に於て韓國の宮廷は漢城市を包含し[illegible]宮廷と餘り密接の關係を有せぬ故に、政務會に於て宮廷と云ふ本籍は漢城の權勢圏と稱すこともある[illegible]に於て太皇帝は尤も非常なる權勢家の一人である、ヘーグ密使事變が太皇帝陛下とならび[illegible]までの破目は、時勢の要求である陛下は王位の退讓を以て國土の破滅よりは大なる苦痛とせられた、陛下其退讓以後に於て[illegible]大院君の時代が回復し得らるべく豫期せられたのである此回復策としては第一李完用兄弟の利用策である第二皇帝同居であつた第三雲峴宮の交際を回復し宗室の連合を謀らるゝことであつた、此策は太皇帝陛下の已往幾多の計畫中で、尤も善良で穩健で、又規模も廣大であつた、何んとなれば第一策によりて統監との折合を圓滿に經過すべく政略に於ては政策の顧責をも出來るのである●第二策によりて隆要なる皇帝陛下並に其外族たる諸閔族の味方を得ることが出來る、第三策によりて久しく怨恨軋轢の間に葬りたる、雲峴宮の好意を得、倂せて宗室たる血族たる大院君一族の援助を得ることである、

然るに一度去りたる流水は逆行せぬ、同居を欲せらるゝ太皇帝陛下に對して皇帝陛下の御心は遷宮論であつた分離說であつた、雲峴宮の交際回復は他の皇族をして不快を買ふことゝなつた、統監と折合を許くする李完用兄弟の利用のみにては片輪の折合であつこで、太皇帝陛下の計算は其十分の三は成功し其七分は失敗した、

此七分の失敗は今尙は半島の各方面に於て一種の氣燄を示して居る、此間の消息を了解するものがあつたなれば自衞團なぞは宮中權閥と見做すであろふ、

今や皇太子殿下は御留學となり東京は日韓共同の和親で天降りつゝある、之に反して慶運宮は寂寞の間に於て電話架設となり、貯金政略となり近頃評判の密使取締とまでなつた、是れ吾人が觀察したる一部の記事である、

覆面を脱ける日本

本篇は英人マッンチー氏の所述にして「貿易」より轉載したるもの也

日本商業の大勢

▲物質的の進步　旅客始めて長崎港に着くに及びて先づ其眼に映ずるは石炭粉にくすぶりたる矮軀短身の小女老媼が小船に蹲りつゝ石炭を汽船に運ぶべく待ちつゝあるを見む古代藝者の養成地として有名なる京都も今や織物及び一般製造業の中心として長足の進步を爲し世界に於て恐くは最も優美なる小仙窟、日光への通路にも幾多の煙突が山紫水明の間に點々空に聳ゆるものあるを見む大名若くは藩主時代の光景果して如何なりしにやと想像に耽けりつゝ山路を踏み分て瀑布の在る所を訪へば必ずや此附近に水力電氣業の計畫せられつゝあるを認めむ數十年以前封建政治と泰西の文明とが戰ひたりといふ馬關海峽も今や石炭の堆き築堤と工場と鎔爐の煙渦卷きつゝあるを見む

▲生活狀態一變　今や日本の古代的平和的及び小說的なる生活狀態は漸次一掃せられて工場、鎔爐、鑄造場、及瀑布場等のざわ／＼したる音響を以て充されむとす彼の美しきムスメも今は既に家に留りて儀式の稽古のみに身を委ぬるを許されず工場の汽笛は威すが如き響して朝六時に彼等を促し立つるなり將軍の曾て住へる東京も今や公私の事務所に滿され、電車は縱横に馳發しつゝある也

▲昨の仙境今の工場　昨日の日本は世界の仙境なりき今日の日本は全然世界の工場たるを喜ばんとす日本は東洋最上の商權を握手せむとして急速度を以て其目的を達んとせり外國製造品の輸入は日々減少すると共に其の輸出は增加し來れり一九〇年のみに就て見るも製造品の輸出は約二割を又半製品は二割六分を增し外國製品の輸入は約二割四分を減じたり此くて又日本は海運業に於ても造船業に於ても又一般の製造業に於ても西太平洋に於て最優等國たるに鋭意發展を計りつゝあり、

▲政府的產業　世界の三大商國民は英獨米の三國にして此等何れも產業上の發達を主として個人の創意及び精力に基せざるなし獨逸に於ては政府が商人の雄大なる活動を補佐するに止り、米國は殆ど個人の精力に放任して何等の干涉を與へず英國にては商業上の個人主義が政府の無能に依て却て阻礙せらるゝの傾あり則ち吾人の商業的發展は何事にても個人を本位とするものにて政府は何等の關する所なし然るに日本は全然之と趣を異にして小事業に於てこそ個人的のものあれ大事業に於ける眞正の創始者及び經營者は多く政府なり政府は工業を創め市場を發見し資本を供給し職工を訓練し最初より最終まで事業の各段階を指導し補左するなり

▲商業的人民に非ず　由來日本人は商業的人民にあらず其の性格は容易に其身を組織的商業は[illegible]に適せず大なる商人たるの[illegible]高等の性質を缺げるものなり想ふに過去數世紀間、商人は人類の最下等にして且最も賤しむべきものと見做され他人の必需品に依て利益を博するが如きは醜劣の行爲として極力擯斥せられたり、されば新日本の建造者は帝國の膨脹は國民的商業に依るの外なきを悟り新商人なる一階級を創め以て多年因襲せる迷說を打破するに努めたり、帝室は爲めに幾多の保護を加へ、皇太子殿下自らスタンダード石油ツラストに加入せられ貴族の子弟を振して泰西の工場に勉學せしめ別に國家自ら各種の大工業を經營し而かも之を獨占せり銀行の如き海運業の如き商業上の大綱は多く政府の營業する所にして政府は幼稚なる產業を助援する爲めに資金を注入し內國製造品に[illegible]以上は例令外國品より多少不廉なるに拘らず之を買上げたり何れの點より見るも日本は內國產業を被護するに於て極めて忠實なりし也、

北老爺嶺（山脈）大森林及雪中縱斷記（十一）　黑衣仙

◉雪夜の行進　頭道花園子から三岔子に出る途中には、北から順次に三道老爺阜、二道老爺阜、頭道老爺阜と老爺の名が附く嶺が三つ有る、抑も此邊りは南北老爺嶺兩山脉の分岐する所で、之からヅッと脉を傳つて長白山に續いてゐる、松花、鴨綠兩江支流の分水線で前者の一支流なる湯河も此附近から源を發し、後者の一支流三岔河も此附近の哈密河嶺から發し、二百淸里ばかり流れて哈密河となり、夫から渾江に落ちる、何しろ深山幽谷此上も無い所で、樹木はいやが上にも欝蒼と立塞がつて、之を密度と云ひ得べくんば大森林中此邊位ゐ密度の多い所は又と無い、この中へ日暮から夜を見掛けて排けてゆく。

粉の如な小雪はさながら石灰を撒き散らした樣に吹きしきつて、一寸先きも分らず、只さへ薄ら暗い森林の中はいよ／＼眞暗らう、何處が路やら更に定かならず、足に任して雪の中を游ぐやうにして滅多矢鱈に忙ぎゆく、身は假令夜が明けやうとも是非三台子迄辿り付かなければ、途中で凍ゑ死ぬるより外仕方はない、八甲田山の二の舞を踏むより外仕方はない、八甲田山と云へば一行の中にその折不思議の命を助かつた者がゐた、その話に一同は死ぬよりは增しだからと奮發して、死力を出して忙ぎに急ぐ、橇の轉倒することは前よりも一層甚しく木の切株や根や岩角に打突かつて仆れることは番互の樣で有る、最う斯うなつては犬の事など面倒を見てやる段でない、橇の上に載せて引連れた仔犬の金砂は何時か見失つて了つた、洋蠟は十歩に一度づゝぐらゐ消ねる、火を點けるのには少なくとも二分や三分は費つ、[illegible]滅ねる、點ける、隨分と面倒なものだが遅れ以つて致方もない、その覺束ない光に先に立つて立木を斫り仆してゆく導者の姿を、それと透かして見ながら、之ばかりを賴りに、時々聲を懸け／＼後先見失はぬ樣にと跟いてゆく、三臺の爬犁へ三人宛位ゐ蠟燭を持つた者が附いて、夫が交々滅ねるので自然三臺共放れ／＼になるに從つて、一行もいつか三隊に分れて了つた、而して木の無い所を徑と心得て進んでゆくと、之は亦飛んだ間違、到頭先の一臺が三岔河の水源から逆落しと云つた体に、河身を傳つて下つて行つた、間違ゐるのも道理、河に木の有り得う譯が無いから路と心得たのも尤である、否冬は他界はいざ知らず滿州に於ては河は自然の大道で有る、尤も河道云つた所で此處は水源の事であるから、幅は狹まし、勾配は有る、急流の懸崖だから氷の薄い所も少なくない、水に陷る、辷り落ちる位ゐの事は當然だ、橇は丸で横仆しになつて箭の如くに辷り落ち、人は礫の如くに轉げて下る、けれど計らず三台の橇が一緒に落合つたのは何よりの仕合と云はんければならぬ、之から河即ち道と心得て間違つたなりに押通してゆく、けれど夫う何時迄困難が續くものではない、暫らくすると、林間の空地に出て、彼方此方に荒屋が一軒二軒づゝ見ね初めた、引續いて漸々破屋が多く見ゐて來て、次第に人の里に近づくやうな心持がすると、間もなう四邊がづゝと開けて、雪も少々霽れ氣味となり、右手に當つて薄模糊と山の輪廓が見ね、遙か前方に焚火の焰が見ゐた。

來年の日蝕と月蝕

日蝕は見られず月蝕は半影のみ　來年一月四日午後四時日蝕あり其セントラル、エクリプスは恰も太平洋上布哇島に係り居るを以て同地方にては皆既を見るを得べく又中央亞米利加の前後濠洲の一部分爲島附近に於ては帶食を觀るを得べきも我日本にては全く觀望し得ずと云ふ又十二月廿三日には南米智利アルゼンチン地方亞非利加の一部分等に金環蝕を見るべしとの事なれど我天文臺にては別に臺員を派遣せざるよしなり爰に專門家には一向珍らしき事にあらざるべきも一般の人には目新らしき現象こそあれ尙は四十一年の暦には掲載しあらざれども十二月八日午前四時を以て月蝕のある事なり何故暦に掲載されざるかと云ふに元來月蝕の生ずる時は必ず先づ半影なる者を月面に見次で黑影即ち月蝕となるものにて此半影は宛も一物体の黑影の周圍に稍や淡き影の現るゝと均く即ち日蝕の場合に於て分蝕の見ゆるは此半影にて學者は常に此分蝕を半影と稱し居れり尤も日蝕は其物目身(太陽)が他物に蔽はるゝものなれども月蝕は之に異りて地球の陰の映ずるものなるを以て從つて半影も著しく認め得らるゝ道理なるが十二月八日の月蝕は此半影のみを見て黑影を見ず否黑影の生ずる前執道の關係にて月と地球と他に反るゝなりとぞ左ればこそ暦面には掲載なく又此半影は最も注意を拂ざれば展望し難かるべしと云り

十一月中 京城物價表（續）

（京城日本人商業會議所調）

日本製桐油（二斗入）	箱	一三、〇〇〇	一三、二〇〇
同コールタ（同）	同	三、〇〇〇	二、八〇〇
同胡粉（十貫目）	俵	二、六〇〇	二、六〇〇
舶來パテ十四磅入極上	玉	一、一〇〇	一、一〇〇
同（並）	同	八五	九〇
オールド（卅ケ入）	個	四三、五〇〇	四三、七〇〇
ハーロー（同）	同	二九、一〇〇	二九、七〇〇
ヒーロー（同）	同	四〇、五〇〇	三八、五〇〇
ドラム（同）	同	三三、九〇〇	三三、七〇〇
石油　松票	函	三、五〇〇	三、五〇〇
勝利票	同	三、二〇〇	三、二〇〇
錨票	同	三、〇〇〇	三、〇〇〇
牛皮　五六斤廻	百斤	四五、〇〇〇	五二、〇〇〇
十斤廻	同	四三、〇〇〇	四七、〇〇〇
十五六斤廻	同	三六、〇〇〇	三八、〇〇〇
牛骨	同	一、七〇〇	一、七五〇
牛蠟	同	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
燐寸（猿印硫黃）	噸	二四、八〇〇	二四、五〇〇
日本塊炭一等	同	一六、〇〇〇	一八、〇〇〇
上等	同	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
無煙塊炭	同	一八、〇〇〇	一七、〇〇〇
同粉炭	同	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇
セメント　淺野	樽	七、〇〇〇	六、九〇〇
小野田	同	六、七〇〇	七、七〇〇
香港	同	六、八〇〇	六、七〇〇
板硝子	箱	八、〇〇〇	七、七〇〇
木炭（上）	貫	一三〇	一三五
（下）	同	一一〇	一一〇
薪（上）	同	〇六〇	〇五三
（下）	同	〇五〇	〇四九

文苑

聽笛　沒名學士

一聲胡笛是何樓、欄角有人不耐愁、怕聽半生羈旅裡、故鄉却似在他州。

夜坐

月之白夕入凭校、新雁帶秋不帶簡、又是空庭墜落紛、詩心一片思無限。

秋日田家

白露既降秋菊野、空林百舌響奇也、從之落帽好風流、載筆村南村北社。

戸田氏逸筆

江山依約感何勝、當日無遺庶萬乘、一片忠誠君看取、凄風慘雨理荒陵。

衣　渡邊慶夫

世の中にわくれし縞といはゞいへ親のかたみのこの古ころも

屑

屑々と買ひゆくみれば世の中にまてごにすたる物なかりけり

眠

わげいりし手まくらの山いつかこゑて無可有の里にわれは來にけり

冬　五句　金子翠雨

日だまりに眠る小猫や枇杷の花
野の宮にものゝ市ある師走哉
漁者樵者師走の市に[illegible]
移り住む[illegible]貧しき師走かな
煤掃は風立ちていと寒き日[illegible]

小說　紘のみたれ（三十七）　水井櫻園

春月樓で騷いだ其翌日であつた、赤阪田町七丁目の竹本濟糸が宅を訪れて

「お師匠在宅かね。」

と、表格子の前に立て聲を掛けた男がある

「はア、宅に居りますよ、誰方です。」

と、內から答へたは濟糸である。

「私だよ、大川だよ。」

「まあ、旦那でしたか、誰方かともつて…顏も出さないで失禮しました。さあ、まあお入んなさいまし。」

と、上り口の障子を開けて、莞爾する。大川とは彼の請負師大川八五郎で、ガラリと格子を開けて內に入つた。

「どうも昨晚は有難うございました、お蔭で大層面白い目を致まして、濟之助も大變喜んで居りました。」

「今朝はあれがために朝寢をして、正午前に起きたのだ。」

「まあ然うでしたか、それはお氣の毒さまでしたのね、私も矢張朝寢をしまして、稽古に來たものに起されたんですよ。」

「それは、私よりか師匠に却つてお氣の毒したね。今頃來て稽古の邪魔になりやせんかね。」

「いゝえ、モウ稽古に來たものは皆な歸つて了ひまして、私が一人限りなんです。」

「然うか、それぢや暫くお邪魔をしやうか。」

「どうぞお上んなさいまし……これから何處かへお出掛けなさるんですか。」

云ひつゝ褥を出してそれに敷けば、大川は無遠慮に其上に胡坐を掻き

「なに、柳橋に行くと云ふ目的もないが、些とお師匠に聞いて見たい事があつて出掛けたのさ。」

と、懷中の煙草入を取出して煙管を[illegible]

「あゝ然うですか、それぢやまあ寬りお遊びなさいまし、私が席へ行くまで用事は無いんですから……。」

と、云ひつゝ菓子鉢に鹿の子餅を盛つたのを出して茶を進める。

「さあ、一つ召上つて下さい……然う／＼旦那は甘い物はお嫌ひでしたのね、では何か取に遣ります、唯今些と女中を使に出しましたが、追付歸りますから……。」

「なあに、今晝飯を食べて此家まで來たばかりだから、御馳走なら冗の事だ、那樣心配なら含した方が可い。」

「取りに遣ると云ひましても、どうせ[illegible]もんぢやありませんから、それお[illegible]つて、早速お話を伺ひませうね。」

と、濟糸も長煙管で喫ひかける。大川は吸殼を吐月峯にポンと敲いて

「聞きたいと云ふのは、大した事ぢやないんだ、あの濟之助の宅だがね、宅は何か商法でも爲てるのかね。」

「ねえ、商賣は爲て居ますが、本の眞似事見たいな物で、辛と父子が食べて往けるか往けない位なもんです。」

「では、親子兩個限なんかね。」

「父親と兩個限ですが、其父親と云ふのも眞實の親ぢやないんです。」

「では貰はれて來たんだね。……して商法と云ふのは何だね。」

「商法は古道具なんですが、道具と名の付く品は無い位で、燒欠した皿小鉢だとか、壞れかゝつた箱類だとか、お話になつたもんぢやありません。」

「ふむ、那樣古道具商なんか……。」



東京電報

▲帝國議會開院式

第二十四帝國議會は本月二十八日に開院式を擧行することに決定されたり當日は 天皇陛下御親臨あらせらるゝ筈なり

▲筑波千歳御親閲

天皇陛下には本月二十七日横須賀軍港に行幸あらせられ筑波千歳の兩艦を御親閲あらせらる

▲特派大使の退京

韓國特派大使李載覺氏の一行は明日午前十時新橋發列車にて退京し箱根、名古屋、京都等を經一月二日馬關を發し歸國する筈なり(二十五日發)

雜報

●騎兵隊編制發表　曾て報せし騎兵隊設置に就ては昨日の官報にて勅令を以て發表せられたり其名稱は近衛騎兵隊と稱し皇室儀仗の任に當らしむるものとし正尉一人、副尉二人、參尉二人、特務正校一人、正校一人、副校四人、參校三人、上等兵十八人、二等卒六十三人、乘馬六十三頭の外に軍醫、獸醫、調護手、蹄鐵工長、軍司、計手等を以て編制すべしと

●財務署設置　度支部にては今回漢城、平壤、大邱、全州、元山の各地に財務監督局を設け其管下に左の財務署を設置し租税徴收の任を掌らしむることゝし來年一月一日より施行すると云ふ

漢城財務監督局管下財務署所在地
[illegible]

平壤財務監督局管下財務署所在地
[illegible]

大邱財務監督局管下財務署所在地
[illegible]

全州財務監督局管下財務署所在地
[illegible]

元山財務監督局管下財務署所在地
咸興 長津 永興 德源 文川 安邊
北靑 洪原 端川 利原 甲山 三水
鏡城 城津 富寧 明川 吉州 會寧
茂山 慶興 穩城 慶源

●元旦の統監府　來る明治四十一年一月一日の統監府儀式は先づ午前十時副統監始め統監府高等官各參與官及所屬官署(在京城)高等官統監府並に所屬官署(在京城)判任官總代各々一名統監官舍に集合し祝賀の辭を述べ次で午前十一時各高等官は韓國皇帝に謁見正午十二時副統監を始め統監府高等官并統監府判任官以下の職員統監府食堂に於て祝杯を擧ぐとの事なり

●京城學校の拜賀式　同校にては來る明治四十一年一月一日午前十時より尋常四學年以上午前十一時半より尋常三年以下の新年拜賀式擧行する由

討伐隊情報

●綾部小隊は去る十九日午前八時横城郡屯內ジホウ洞に集合せる約百五十の匪徒を攻擊し珍富方面に擊退せり其賊の死体五、負傷六鹵獲品多數ありたり

●提川の守備隊より派遣せる討伐隊は去る二十日夜八時寧越郡スイシウメン、コウリン洞に集屯せる約三百の匪徒を夜襲し之を潰亂せしめ其七十二を殪し鹵獲品山をなし何れも我に損害なし

●[illegible]附近より揚口に前進せる三浦小隊は廿日午前三時より賊を追躡し午前十一時揚口郡ジウ(不明)に於て之を掩擊せり其數約五十の賊は多大の損害を受け揚口方面に遁走せり賊の死体二十二捕虜三銃器十九彈藥若干を鹵獲せしが我に損害なし

●山本小隊以下卅一名は十九日午前五時鳳腰寺に於て約五十の賊と交戰一時間の後之を擊退せしが賊の巨魁カンキユウンシ以下廿七名虜にしたり鹵獲品は銃十、雜品七十點吾れに負傷二名ありたり

●同小隊は午後二時倉村附近にて約二百五十の賊と交戰約五時間の後之を鋼坪方向に擊退せり賊の死傷八十餘巨魁は閔肯鎬にて部下は殆んど負傷兵なり

德隱洞の夜襲

[illegible]

汝海洞の攻擊

[illegible]が常に此附近に出沒せる賊約十名內外にて右偵察隊の到着以前伊川方面に退却し踪跡不明なりと

暴徒の巨魁を殪す

內西面附近の暴徒討伐の爲め去る十八日珍富[illegible]を出發せし吉澤少尉の率ふる一隊は翌十九日同地の西北約十里のジョウトク村に於て暴徒約三百に出會し其巨魁を殪し携帶せる總ゆる物品を鹵獲せりと

巡檢隊の手柄

忠淸北道忠州巡檢隊長朴權兩警視は李康年の所在搜索中永春郡小白山熊谷に於て同所より四里を距る佳野面福成洞にありて頻りに部下の糾合を爲しつゝあるの報を得しかば之を全滅するの目的を以て出發し十六日午後三時目的地に到着し之を包圍攻擊することゝ約三時間首魁李康年は負傷し先づ遁去せるより部下の匪徒は四散潰走せり此戰鬪に於て巡檢潘明煥は左足に重傷を受く匪徒召募大將李重鳳召募將元哲常、申學、金明善及部下七名を生擒し死屍を發見すること十四、村田連發銃一、火繩銃六、モーゼル銃八、彈丸約一千六百十六、李康年の木印一、同人の自作召義編一冊、火繩、韓兵革帶、外套其の他雜品數十點を鹵獲せり

熊谷民長の市街擴張意見

晩餐會上の一雜話を以て直ちに熊谷民長の眞面目なる處見なりと斷ずるはいさゝか早計の嫌なきにあらざるもその語る處在留京城市民の爲に好個の參考と成るべきものあるを以て茲に其の大要を紹介すべし氏曰く京城も今や日本人三万餘を以て算すべく從つて日に市街の繁盛を來し實に慶すべきものあり試みに日本人の商業地たる本町通りに至れば往來の人肩摩轂擊して道路の陝隘を感ずべく泥濘は到底今後發達すべき日本人の商業舞臺として滿足すべくもあらず更に他に新市街を建營せざるべからざるの必要を認むるなるべし余の見る處を以てすれば更に建設すべき新市街は洞峴にもあらず長谷川町にもあらずして南大門通りの本町を出づる邊より南大門停車場に至る間なるべし而かれども必要は價格を生じ目下南大門通りの地價は人氣相場の爲めに東京の一二等地と差異あることなく此の高價なる地價に向つて個人的發展を求めんことは所[illegible]はこれを成功せしめんに[illegible]の力を利用するにあらず[illegible]案は當局者として夙に此[illegible]しつゝありと雖も未だこ[illegible]の好手段を發見せざる[illegible]ることあり他にあらず幸[illegible]市民にして許すべくんば[illegible]彩票を賣り出しこれによ[illegible]以て土地の買收費に充つ[illegible]て此の策が行はるゝこと[illegible]を感ずることなくして前[illegible]日本の新市街たらしめ得[illegible]

韓一銀行の擴張

韓一銀行は韓國唯一の民間獨立銀行にして京城韓人間の財界には一大勢力を有し將來益々有望なるものなるが今回度支部の認可を受け資本金十五萬圓を五十萬圓となしたる由因に同行頭取は趙東潤氏にして專務取締役は白寅基氏なり

吉長線踏査確定

本年四月十五日我林駐淸公使と那桐氏との間に協定したる條款第四條に基づき彌々吉長鐵道敷設の測量に從事し敷設經費等に關し更に議を重ぬる筈なるが右踏査に就き淸國側の委員には羅國瑞氏外數名我南滿鐵道會社の委員には大連建設事務所長技師谷直諒氏委任せられ本月二十四日双方奉天に於て會合すべしと而して踏査完了後は同條款により六箇月以內に當事者間に借款契約を更むる筈なりと

日露商人金採鑛

吉林管下大金山北三百餘淸里の小金山金鑛は從來土人が採掘し居りしが去月中多數の日本人同地に赴き採掘に從はんとせしも其地の露境に接せるを以て屢々露人の妨碍に逢ひ目的を遂げざりしが後ち交渉成りて合同採掘の契約を結び己に株金を募集し器械を買入れ期を定め採掘に着手することとなりたるも淸國官憲は一切之を不問に附し居れりと云ふ

控訴院の位置競爭

韓國の控訴院設置につき其の位置は何れなるか未だ公然の發表を見ざるも梅博士の漏せし所によれば京城と平壤と大邱とに內決し居れる由なる斯くと聞きたる釜山にては是非とも同地に奪ひ取らんと仰々しき運動を開始せしより倘し釜山に設置せらるれば大邱が泡を喰ふに至るは必然なるを以て同地の有志者はまた對抗運動を始め韓人四十名日本人六十名都合百名連署の請願書を作り曾禰副統監及趙法部大臣に宛請願書を提出せしといふ

●加藤前顧問の出發　前宮內府顧問加藤增雄氏豫報の如く昨日午前八時五十分南大門發の滊車にて夫人同伴歸朝の途に就かれたり停車場には居留官民の見送りしもの頗る多かりし

●木內次官　內部次官木內重四郎氏は公用に付東上せられたる由

●三增理事官の歸任　豫て入京中なりし馬山理事廳理事官三增氏は昨朝歸任せり

●信夫理事官外の見送　別項の如く光濟號出帆につき信夫理事官富田民長、宮本稅關長は見送りの爲め本艦に出向す

●富田民長の出張　加藤增雄氏昨朝出發歸朝の途に就きたるを以て富田民長は見送りの爲め永登浦迄出向せり

●第一仁川支店長　第一銀行仁川支店長に轉任したる太田三郎氏は既報の如く一昨日來仁したるが仁川支店の事務引繼を了せざる爲め本年末迄野口氏事務を執り明年一月より太田氏が實地の執務をなす筈なりと

●光濟號の出帆　既報の如く光濟號は昨日午後三時出帆神戶に向ふ

●松井氏記者招待會　內部警保局長松井茂氏は新任披露と忘年とを兼ねて京仁新聞記者及通信員を一昨日花月樓に招き一大宴を張られたり出席者は各新聞代表者及通信員の外木內次官丸山警視總監生田書記官其他の諸氏にして宴酣なる頃主人松井氏の挨拶あり尋て記者側の代表者中島大坂每日の謝辭あり續て戶叶大韓、頭本プレス、峯岸京新、服部京日、大村朝日、久田時事、熊谷國民、加瀨タイムス、木內次官等指名を受けて交々立て席上演說に花を咲かせ各歡を盡して十二時頃各自隨意に散會せり

●井上雅二氏の招待會　宮內府書記官井上雅二氏は二十三日夜氏の友人なる各新聞記者及通信員三十餘名を日本人俱樂部に招待し晚餐會を開かれたり宴中井上氏の挨拶あり中島大阪每日の謝辭あり夫より一同は同業者出身井上氏の官吏としての成効を祈るが爲に乾杯を爲し十一時過ぎ散會したり因に當夜は權藤會木の二氏特に列席して接客に勉められたり

●富田民長の記者招待　富田仁川民長は豫報の如く一昨夜在仁新聞記者を仁川俱樂部に招待し其席上に於て本年度に於ける民團施政方針につき種々談話する所ありたり

●來年の名刺交換會　日本人俱樂部にて擧行すべき四十一年の名刺交換會には申込者既に六百五十名に達しこれを昨年に比すれば約倍數に達したるよしにて出席不出席を論せず一般に會員に對し會員名簿を配付する由

●宮中伺候者　一昨廿四日の宮中伺候者は昌德宮は趙法相、洪侍從院典醫、嚴侍從院侍從、李侍從院侍從等を重もなるものとして總計五十九名なりしが內男五十三名女六名なり又德壽宮は趙閔監、徐承寧府侍從、金侍從院侍從等を重もなるものとして計六十二名にして內男卅八名女二十四名也

金國丸衝突の詳報

既報せし滊船金國丸及第二早鞆丸衝突事件に關し元山警察署岡田警視の報告に依り其詳報を揭げんに元山西湖津間は其の距離二十二浬あり金國丸は從來此間を定期航行せるものにして同船は去る八日午前二時西湖津を出帆し元山に向け歸航の途に就き第二早鞆丸は同日午前三時元山出帆西湖津に向け進航中午前五時(此の時間に關し兩船共の申立時間約一時間の相違あり)元山西湖津間中央の海上に於て兩船衝突し金國丸は早鞆丸の爲めに船首及び左舷中央部を衝き破られ損所より海水浸入し約三四分間に沈沒したり之が爲め乘客中日本人三淸國人一韓人十一及乘組船員中日本人一韓人一行衛不明となり船長、機關長、火夫、水夫等計八名及乘客日本人三韓人二は早鞆丸に救助せられしが(內一名死亡)同船は衝突の際船首の鐵板及左右舷に僅少の損所を生じたるに止まりたるを以て金國丸の被難者を乘せ西湖津に歸航せり而して此報一度金國丸取扱店たる田口回漕店に達するや同店にては早速救助の爲め警部一名、巡査三名の便乘を乞ひ正成丸を遭難地に向はしめ現場に至り搜索に從事せしめたるも沈沒船体を發見する能はず依つて更に同店より潛水器械船を派遣せしが又之に警部一名巡査二名を便乘せしめ極力搜索に努めしも終に船体を發見せず依て一面八頭司回漕店に交渉し搜索の爲め前記早鞆丸を現場に向はしめ巡査を便乘せしめたり以上の衝突に關し兩船關係者を取調べしに双方の申立重要の點に於て相違し其の責任の歸着する處を斷定し難きも畢竟兩船共其の運轉を水夫に一任し居りたるにより此災難を生じたるものゝ如し

敍任辭令

統監府鐵道管理局書記兼統監府屬　小田信治
免本官專任統監府屬(五級俸下賜)(廿日)
理事廳理事官　松本重敏
清津在勤を命ず(二十五日)
同副理事官　大枝義祐
同　屬　橋本豊太郎
同　同　三浦濟吉
清津在勤を命ず(廿五日)

●防疫員の慰勞會　先に皇太子殿下御來韓の際防疫事務に從事せる百戶長約七十名の勞を謝するため來る廿七日午後四時より民團役所樓上に於て慰勞會を開催する由

●漢城病院の忘年會　漢城病院醫員一同は一昨廿四日午後六時より花月に於て忘年會を催したり

●光濟號員の寄附　元光濟號艦長磯貝少佐同機關長野田大尉より仁川消防器具購入費中へ金五十圓を寄贈せられたり

●足立民の寄附　十八銀行仁川支店支配人足立瀧次郎氏は曩に當地水產會社創立に際し株金拂込檢査を囑托され其報酬として送られたる金十圓を仁川慈善會に寄附せられたり

●風聲鶴唳　去る廿二日午後十一時半頃南大門停車場驛員某同停車場巡查派出所に來り息切りながら只今青坡山の手方面に銃聲三發を耳にせしとの屆け出でと同時に又同停車場の西方山手なる萬里峴に住する後藤虎雄方より電話を以て只今自宅門側に居住する日本人方へ暴徒闖入し今にも亂暴狼藉を逞うせんずる勢なるより直ちに出張を乞ふとの急報に接せしかば同派出所にては早速警視廳に向つて其の旨を報せしに同廳よりは時を移さず巡查數名を急派し取調べたるに右は全然無根にして事實は下の如くなりと、幵は當時青坡居住右田久平(六十)方に於て家內一同就眠中圖らずも戶外に何にやら足音のせしより同人の妻クチオ(三十)は眼を醒まし斯くと夫に告げたるに久平はスワこそ暴徒御座んなれと兼ねて護身用の拳銃を取出し戶外に至りて白衣の韓人一名路踞し居り今や將に戶口を開かんとしてマッチを摺り居りし際なりしかば久平は此の曲者と言ひさま手にせし短銃を三發程連發せしに曲者は打驚き倉皇外壁の土塀を乘越ゐ逃走せしが久平は萬一同類の附近に隱れ居るやを氣遣ひ殊更らに韓語を以て「ブランダン」(火賊の事)襲來したりと大聲にて呼びしを前記後藤等は之を聞きて扨はいよ／＼暴徒襲來かと早合點し驚愕の餘り前記の如く屆出でたる次第なりとか當局者は早速搜索に取掛りしも何れへ逃れしや踪跡不明となりしと云ふ

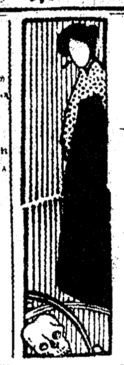
間島たより

於間島　知台生

▲統監府派出所　統監府派出所の事務所は倭小なれども間島唯一の亞鉛板屋根なり十一月二日竣工三日天長の佳節には在留商人の寄贈演劇備人及び雜工連の仁輪加狎瓏琵琶歌などあり幾多韓淸人の耳目を聳動せしめたり應接室、所長室、總理室、總務室警務課、調查課、監査課など何もかも一處なり搆內に所長官舍あり皆な急造なるを以て現時の寒氣に堪へ兼ね種々考案中にて暖爐も火鉢も明方には何の役にも立たず搆內は一町餘なるも家屋は至つて小さし大門に統監府派出所の大看板を揭げあり貴紙などにありし如く家屋の小なる爲め淸國人の侮蔑などを受けたる樣な譯なり淸國人は陳督辨と雖も大門前に下馬せしめ從者などは一名だも入門を許さず人民は只の一時間にても事務所に引致せらるゝを恐るゝ如し憲兵の話を聞けば有理の淸國人何か韓國人の爲めに告訴し來り双方對照の必要なるを以て暫時留め置けば直ちに通譯官に懇願し事件は全然願ひ下げべくにより歸家せしめられたしと申出ることありと其威嚴の如何は頗る[illegible]家屋の大小にも因らぬものと思はる

▲病院の景況　病院は村井一等軍醫之を監督し診斷も施術も何もかも只一人にて殆んど忙殺せらるゝの体實以てれ氣の毒なり今日の寒氣にさへ患者新舊合せて一日平均百名餘大拉子、局子街、頭道溝(六道溝を距る約六七里餘)などより淸韓人の患者牛車馬車に乘じ續々絕へざるの姿なり就中軍醫の信用厚き爲めか淸韓婦人の患者日に多きを加ふるなど淸韓地方に於て最も珍とすべき次第なり只患者收容の家屋なきには軍醫も困難し居れり

▲土人の感情　六道溝附近は淸韓人を問はず甚だ喜悅安心の色見へ派出所用と言へば喜んで其需めに應ずるの傾きあり夫れは公道に價格を仕拂ふのと手數の少なきに基因す又馬賊は此附近にては藥にしたくも來らぬ樣なりたるを以て斯く喜ぶなるべし萬事支那役人に對するより諸費の僅少と所辨の簡易なるを以て滿足しつゝあるが如し



海戀(上)

無名氏

大島は春の國だ、南から來る温い潮が此島ケ根をくるんで行くので、冬の眞中の一月と云ふ今日此頃でも、海の氣に空氣も輕くて椿の林は青葉しつ鮮かに花の色さへ彩取つてゐる。

されば風なき穩かな日に、林の小途をぶら〳〵と、興を索かるゝ儘に歩いてゆくと、向に見ゆる家の背戶にこそ、桃櫻花の亂れてゐやうと迄、空想勝な私の心は春を懷ふ事屢々である。

「たいつ姉子」

日の入のも半時と云ふ夕暮、晩發前にとるがつねなる散歩の歸り路、椿の林の下途を辿つて來たら、卜見ると牛を牽ひた手綱をとめて背を此方に若い女、目倉縞の筒袖に黃な襷を十字にとつた風体こそ他とは變らざれ、やゝ隔たつた道ながら黑布捲ひた豐かな頭髮、その髮の亂れが懸つた頰の白く豐よかなる、見違へやうか濱の花なるたいつ姉子、夕暮るゝせわしい時に何を恍然眺めてゐるのかと、近付いて呼掛けて背を打つた。

氣が着いた樣で振返つたが、

「はあい」と例の尻上りの低い返事、格別驚いた樣子もない。

「何を見てるね」

「はあい」と又空返辭、胸には何か思が充ちて他に愛想するゆとりもない樣、フウフウと荒く息をしながら頻りに物を嗅いでゐる、牛の鼻面を邪見に起すのだ、

間が拔けた私は仕方なしに心ともなく娘が見入つてた方を見送ると、行手は海に突出たの最小高い丘、永の年月雨風に打れて、身も耳も手さへも欠けた地藏一基が前のめりに立つてゐる、その圍りには苔蒸した小さい墓が七つ八つ、慈眼に守らるゝ墓場の地ながら、海を見晴らすに絕好の場所、景色を稱したいと思ふ折には私はいつもそこの地藏の前に腰をおろすを習ひとしてゐると見るとその道を若い瘦せた男の歩んでゆく後影、丸つ切り見知らぬ姿でない、三度四度言葉こそ交さねその場所に均しく景色を稱した事のある人だ。

「や、男に見惚れたのか、姉子、怪しからんぞ」と笑つてやると、流石少女のぱつと顏を紅くしたが、ついと反らして無言に牛の手綱を引いた、仕舞つたと思つて前言取消に矢継早や、

「何うしたんだ、あの人は……大變瘦せて顏色が惡いね

「病氣づら」と怨めしげに一言云つて丘の方を一寸見返る

「何だい」

「何づら……物一つ云ひましねね」と呟くやうに答へたが、伏目の顏を隱すかと、直ぐに身を翻して私が來た方へ、牛を引立て〻行つて仕舞つた、

私も其儘家路を指して歩き出したが、風とては微塵もない穩かな日身をくるむ空氣は春の如くに軟かく温いので、そのづと氣も輕く足も輕くなり、家への別れ路へ來たけれどそつちへは曲らず眞直ぐ、行くともなしに丘へ登つた、登つていつもの通り地藏尊の御足拜借石段に腰を下した、見ると先刻の若い男、崖目近に鶴のやう細い姿を海に臨んで此方へ後ろを向けてゐたが、人の氣配に慌てた如く振向いた窪んだ眼に險しい光の閃いたが、私を見ると直ぐ視線を反らして又海へ、折柄落行く入日の方を餘念も無けの姿かな、身動ぎ一つするではない、私も脫と海を見た、まこと晴れたる夕べの空斗り世に美しい色彩はあるまい、藍、紫、紅、黃、紺青、綠、は愚かな事、人の言葉に絕したる種々の色が綾さへ巧みに燦然たる、空の光は又水に映つて水や空々や水なる渾然と溶けて天地無縫の一大畵幅、その圖の上から垂直に、下へと落行く圓々たる大塊は、眞紅に燃ゐて金色の焰を放つて、蹴ぎる雲を散らし蔽ふ霰をば消しながら、見る〳〵水に近付いた壯嚴の景色かなつと立て私は男に近付いた

「佳い景色ですね、もし」

突然物を云懸けられて薄氣味に振返つて私を見た、訝しげな顏をするのを構はず。

「實に絕妙だ、繪にも畵けない筆では尚更だ言葉に絕すると云つた景ですね、さうは思ひませんか。」

「はあ」とはじめて心落ちゐたらしく、寂しい面に笑みさへ浮べたが、聲を出すと同時に咳がからんだか、劇かに咽ぶやうに咳入つた。

玉と船員(下)

海上の魔窟—女を玉に船員を釣り込む—船員は皆泥棒

▲泥棒の上前はね 船員の贅澤は前にも申しました通り自分の月給ではなく其大部は荷物を胡魔化したり乘客の運賃をくすねたれ金です、先日も正直なボーイさんが來ました時に船員の金使が馬鹿に荒いが一体船長や事務長事務員さんは幾らの月給を貰つて居るのかと聞きましたら何に月給などは安いが外に餘得があるだ先達も何港やらで金巾一個揚げ殘りがあつたのを其儘事務長がくすねて仕舞つたがあの金は大方此樓で使つて仕舞つたよ、と語られましたが之れを聞いたときに私は驚きましたよ

▲女に土產 それから先は妾共の女に肩掛と化粧道具をれ土產に下すつた船員がありました、女に聞いて見ますとそれは鎭南浦揚の荷物の中から拔き取つたものだと申しますのよ

▲藝者でも誰でも 前申します通りですから船員と申しますと妾共では大事なお客扱ひを致しますのですがこれといふのも皆船の中で女を仕入れて歸りますさきにチヤンと連絡を付けるのです、ですから敷島は元より日本町の一枚藝妓でも十人共に三四人は乾つと船內で船員の惡意を受けますよ、日本町の藝者などゝいつて威張りましても內地では立派な地獄や娼妓をして居つたものが多いですよ、何んですつて玉が一つ幾ら位ですつて、それは玉によりきりでさ—まー日露戰爭前でしたら大抵の上玉でも二本(二百圓)は出ませんでしたが此頃では其二本の玉が八九本出さなけりやありません騙をして連れて來るのだろうなんていふものちやありませんよ、妾達だつてまん更素人ぢやなし玉を仕入れる時の呼吸位は心得てますアね、然も稼業の秘密ですから申されません、れや〳〵話が飛んで橫ツチヨに入りまして自分の內輪をすつかり喋舌ちまつたよ、然しどうか新聞に丈は書かずに下さいね

池見與五郎歸國命せらる

仁川驛貨物係主任

我社が曩きに仁川驛貨物係の不埒と題して同驛貨物係主任池見與五郎の不正行爲を曝き以て運輸界の改善を圖らんとせしが是れが爲め彼れ池見は去る廿一日突然內地に歸朝を命せられたり吾人は同人が內地に轉任を命せられたるものなるや否やは知らざるも兎に角仁川驛より一時なりとも彼れを放逐し得たるを喜び且つ此れが監督官たる岡運輸課長の英斷を稱替せずんばあらず

●蘇生病院の施療 同院は是迄大漢門前に開業せしが病室狹隘となり患者の不便少からざればとて今回長谷川町三丁目に移轉したるが本田同院主は貧困にして藥價等に窮するものに對し施療をなすことゝし熊谷民長とも相談の上多數の施療券を民團役所に交付したれば貧困者は同役所に申出で施療券を申受け同院の施療を受くべきなり尙は同院にては各新聞社職工に對しては半額にて診察投藥すと云ふ

●ボヤ 一昨日午後八時頃明治町淸水淺吉の二階より出火し大事に至らんとせしに近隣の者之を見認めて消し止めたるは仕合せなりし

●八景園の新築落成 龍山元町なる八景園にては日に增し來客繁殖し從來の家屋は狹隘を告ぐるより過般來新築工事中の處この程漸く竣功し爾來は百人以上の宴會といへども優に引き受け得べき準備整ひたるを以て此の際特に忘年會新年宴會等は成るべく廉價を以てこれに應ずるとのことなり

●折鞄の遺失 當地赤門通り岡田組の金田春太氏は昨日赤門より西小門までの間に於て要用書類入の折鞄を遺失せし由にてこれを拾得し若くは其の所在を通告したる者には相當の報酬を爲すべしと委細は本紙の廣告にあり

●無念の暴行 旭町二丁目富士商會に同居する土木請負業小林力三郎(四十)は豫ねて靜岡縣人にして當時南大門外蓮池坊に居留せる平岡鐵太郎より土木請負に用ゆる金員を借り入れ返濟の際鐵太郎が無情の督促をなしたりとてこれを遺恨に持ち昨二十五日午前三時鐵太郎方に至り門戶を破壞し同家に侵入して家人に暴行を加へたる上急須一個茶碗一個女單衣物一枚其他器物を破損したるにより平岡方にては早速其旨本町警察署へ訴へ出でたれば直ちに山本巡査出張したるも力三郎は既に何れにか逃走して行衛不明となりたれば平岡は家宅侵入及器物破毀罪として其筋へ訴へ出でたり

●血の雨を降らさんとす 一昨二十四日午後七時大和町一丁目居住の田中德二郎同中野多兵衛及び本町七丁目曾根田梅吉等は賭博の果て悶着を起し互に不和を生じ睨み合ひの姿なりしが其乾兒と稱する者ども多數集り大喧嘩を初め血の雨をふらさんとの形勢あるを聞きたる本町警察署にては野口定宗の兩巡查部長及び鮫島巡查等を出張せしめ和解をなさしめたれば事なく濟たりと

●證明書僞造の告訴 龍山老松町に居住して土木請負を業とせる滋賀縣與壁郡雨引村野中推弘といふは去る三十六年中毆打創傷罪に依り重禁錮一ヶ月に處せられたる曲者なるが其後渡韓して當地小野組に雇はれ其支配人酒井敏の部下になりて土木請負業擔當中明治四十年五月以來十一月六日までに收入したる金員の內金九千四百九十七圓一錢三厘を自己が經營せる馬山浦及び仁川の工事費に投じ十月廿九日龍山靑坡に於て小野琢磨の印鑑證明願を僞造して京城民團役所に屆け出で證明書を得て小野琢磨の名義を以て電話讓渡請求書を僞造し自分を讓り受け人として小野の印形を盜用し其の印鑑證明書と共に同日京城郵便局長に差し出し同局を欺き自分の名義に書き替へをなしたるにより昨廿五日小野琢磨より其筋に告訴したり

●物を渡せ渡さぬの悶着 高砂の謠や三三九度の盃に夜を徹した祝言の酒の醉の醒めぬ間は浪風も立たず一家平和に睦じけれども日を經るに從ひて米櫃の底は空虛となり風呂錢にも欠乏を告ぐるに至ればあらいもない姫御前の口よりこゝな甲斐性なしの宿六なんて雜言も迸り亭主も男の一分立たずと拳骨を振り上げる末は折角に偕老同穴の契を結んだ夫婦が破鏡の歎きを見るといふ筋書は世間に敢て珍らしからぬが爰に當地壽町の提灯屋中尾某(五十)といへるは過ぎし頃川の小金丸某の娘を貰ひ當初は差向ひの仲睦まじく暮らし居たりしも例の始末にて女房は實家に逃げ歸り使を以て嫁入りの際持ち來りし荷物を受け取らんとせしに中尾某は兎や角といつてこれを渡さず遂に警察署の說諭を請ふに至り昨日双方呼び出されて中尾某の言ふ所を聞くと結婚の前に贈りたる結納を戾せば荷物は渡すとの理不盡の申立に署長は粹を穿つてこれを論し中尾某も其の理に服して引き退がりしがこんな非道なことを言ふ男なれば女房の愛想をつかしたるも無理からぬこととなるべし

●氣の毒な窃盜漢 永登浦鐵道管理局避病院の小使岡山縣吉備郡秦村河合卯吉(四十)はかねて馬鹿正直なるより醫員も安心して可愛がり居たるに近所にゴロつき居る博徒等のためにそゝのかされてツイ賭博に手を出したるより遊び事が面白くなり心ならずも同院の看護婦吉田リクが去る二十日馬山浦へ出張の留守中リクの夏冬の衣類十五枚帶二筋外に雜品若干を入れたる柳行李を持ち出しかねて懇意にせる永登浦の佐藤質店に曲げこみて金二十圓を借り賭場に勝負を試みてスツカリ卷き上げられたるより又も同人の友染金巾の蒲團二枚を持ち出して同佐藤方に質入れして金五圓を借り又候卷き上げられたるより詮方なく病院に歸りて小さくなり居たるに去る廿三日リクが出張先きより歸院して自分の所持品は如何になりしかと問はれて泥棒に這入られたと答ふる程の勇氣もなく全く自分が賭博に負けて質入れしたる由を語りたるよりリクは早速質を受け來れよと命じたるに爺は金を持たざれば其まゝ家を出で一應佐藤方に至り月末には金を持つて來るべければそれまで質物を渡しくれと乞ひたるも佐藤の承知せざるより京城の知人に金を借る考にて二十四日徹夜にて京城まで來たりしも知人の行衛分明ならず詮方なく金でも落ちては居るまいかと的度もなしに諸所を徘徊したるも腹は減る良心は責めるこれではたまらずと一昨廿五日午前七時本町警察署に自首したりとは馬鹿正直者も困つたものかな

●仁川狂犬死屍 去る廿三日仁川山手町に於て狂犬の死屍一頭を發見し成規の檢査を經て埋却せり